



 福岡銀行

研究・開発力を更に高め

世界に向けて躍進するメーカー商社。

リックス株式会社

代表取締役社長執行役員

やすい たかし
安井卓氏

取引店／福岡銀行 本店営業部

■会社概要

創業:1907年／設立:1964年／所在地:福岡市博多区／資本金:8億2,790万円／従業員:723名(2024年3月現在)／事業内容:産業用機械の製造・販売 ■営業項目:流体応用機器・設置製造販売、精密自動・計測機器販売、製鋼副資材等販売 ■生産品目:【装置】IC樹脂バリ取り装置、金属深穴バリ取り装置、超高压水剥離洗浄装置【継手】高压ロータリージョイント、高速ロータリージョイント、高温用ロータリージョイント

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





リックス協創センター前(左から安井社長、五島頭取)

足袋から始まり創業117年

お客さまの「困った」を解決し続ける

当社は、鉄鋼、自動車、電子・半導体、ゴム・タイヤ、工作機械などの製造業の生産現場で使用される設備や装置、部品、資材、消耗品などを製造・販売しています。

始まりは、1907年にブリヂストンの前身である「しまや足袋本舗」の代理店として、福岡市博多区綱場町にて創業した「山田商店」になります。その当時に最先端だった地下足袋を官営八幡製鐵所(後の日本製鐵株式会社)に納入していたことから転機を迎えます。

1943年、当時から「お客さまの「困った」を解決する」ことを信条にしていた当社では、製鐵所に入入りするうちに現場での困りごとを相談いただくようになっていました。そんな中で、「(回転軸の油漏れを防ぐ)オイルシールが手に入らない、どうにかならないか」と相談されたのです。これを解決するために、オイルシールを取り扱う日本油止工業株式会社(現:NOK株式会社)と契約を結び、当時の日本製鐵株式会社 八幡製鐵所、戸畑製鐵所に各種オイルシールを納入。このような経緯から産業界への参入が始まったのです。

その後も商社として業績を伸ばしていき、

1964年には商号を山田商事株式会社と変え、法人化します。しかし商社として製品を調達するというのは、先方との駆け引きなど難しい場面が少なくありません。「いつかは自分たちで製品をつくりたい」という思いをずっと抱いてきた中で、ついに1967年、高圧油圧ポンプの製造販売を開始します。ここから商社でもあり、メーカーでもあるという「メーカー商社」としての当社の歩みが始まったのです。

グローバル展開を賭けた 東証プライム市場上場 そして社名変更へ

1969年には、回転継手メーカーの協和工業を吸収合併し、福岡工場として稼働を開始します。同時に商号を「山田興産株式会社」に変更しました。1996年には福岡証券取引所へ株式上場したのを手始めに、2008年には東京証券取引所市場第二部へ株式上場、2016年に東京証券取引所市場第一部(現:東証プライム市場)に上場しています。



5



3 1



6



4 2





安井社長

一方メーカーとしては、自社オリジナルブランド「ROCKY」の名が付いたロータリージョイントの生産において、工作機械業界向け国内シェア70%以上にまで成長しています。更に海外拠点は、中国やアメリカ、ドイツ、インドネシア、インドなど7カ国、12拠点にも及びます。東証プライム市場への上場は、国内での取引をはじめ人材採用の強みになるのはもちろんですが、海外取引においては何よりも確かな信用につながっています。

社名も世界に通用する名前にすべく、1990年に「リックス(英語名: RIX)株式会社」と改名しました。英語名のそれぞれに意味があり、「R」は当社製品のブランド名である「ROCKY」という意味に加えて、アメリカ進出において「自社製品やサービスをロッキー山脈を越えて届けたい」という思いから

付けられました。「I」は我々のお客さまである産業界の「産業」という意味のIndustry、「X」は無限の可能性を指しています。

受け継がれてきたDNAと

新たな行動指針をまとめた

『RIXing Action』

私は古河電気工業株式会社を経て2006年、妻の父が経営するリックス株式会社に入社し、2019年には代表取締役社長に就任しています。社長に就任してからさまざまな新しい取り組みを行っていますが、その中の一つに「RIXing Action」があります。これはグローバルな組織展開に伴い社員数も拡大する中で、今後の更なる成長に向けリックスグループの社風・行動理念を9つのActionとしてまとめたものです。

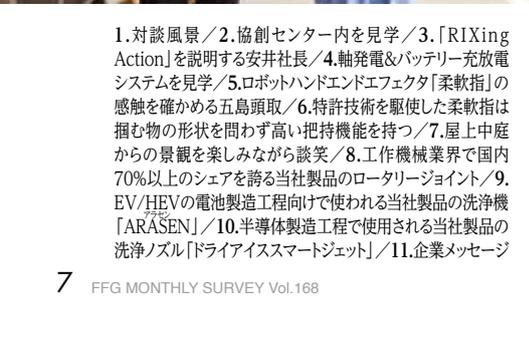
その9つのActionとは『No.1..善悪を損得に優先させよ、No.2..逃げない、No.3..一丸となって団結に徹せよ、No.4..明るく楽しく伸び伸びと、No.5..世界のお客様の伴走者であり続けること、No.6..ファミリーを発展の源泉と捉え自己実現の場を提供すること、No.7..取引先様にとって



11 9



7



8

1.対談風景/2.協創センター内を見学/3.「RIXing Action」を説明する安井社長/4.軸発電&バッテリー充放電システムを見学/5.ロボットハンドエンドエフェクタ「柔軟指」の感触を確かめる五島頭取/6.特許技術を駆使した柔軟指は掴む物の形状を問わず高い把持機能を持つ/7.屋上中庭からの景観を楽しみながら談笑/8.工作機械業界で国内70%以上のシェアを誇る当社製品のロータリージョイント/9. EV/HEVの電池製造工程向けに使われる当社製品の洗浄機「ARASEN」/10.半導体製造工程で使用される当社製品の洗浄ノズル「ドライアイススマートジェット」/11.企業メッセージ



最前列左4人目から安井社長、五島頭取、山本本店営業部長(福岡銀行)

お客様との懸け橋になること、No.8…持続可能な社会の一翼を担うこと、No.9…投資をしてくれる皆様の期待に応え続ける』です。

No.4までは、もともと当社の中のDNAとして受け継がれてきたもので、以降はグローバル企業として忘れてはならないことを私なりに考えてまとめました。この言葉は英語などに翻訳して、海外の事業所にも貼り出しています。先日訪れたインドの事業所にも、現地の言語に翻訳して貼っており、インドのスタッフも、工場の中に入り顧客密着で一生懸命に働いてくれています。その熱心さがお客さまに通じて、取引が成立した事例もあります。

世の中の進化とともに、われわれもITやAIを導入していますが、17年の歴史の中で培ってきた「お客さまの困ったを解決する」という姿勢は、今後も大切にしていきたいと思っています。

研究・開発の新たな拠点 『リックス協創センター』

更なる100年に向けて、新しい事業に向けた取り組みも始まっています。その一つが2024年11月に福岡県粕屋町にて稼働を

開始した「リックス協創センター」です。ここは当社が得意とする流体制御技術を軸とした既存の製品の枠を超えた新製品の研究・開発を目的とした施設になります。

延べ床面積3,802平方メートル、地上4階建て、組立室、実験室、計測室、設計室、クリーンルームなどを備えています。ここでは、「協創」という言葉通り顧客・仕入先・ベンチャー・大学・研究機関などをパートナーに迎え、連携しながら研究・開発に取り組みます。

これから私たちが求めていくのは、いわゆる両利きの経営である「深化と探索」。今の製品の「深化」については現在の組織でも十分対応できますが、次なるイノベーションを起こすための「探索」には自分たちだけのリソースでは足りない部分があります。施設の完成を待たずして、数社と当社の研究開発チームが一緒になって新商品の開発を始めており、実用化も見えてきています。

「2030年度までに弊社からしか販売できないオリジナル品（自社製品、グループ会社製品、専売仕入れ品）の割合を現在の3割程度から5割以上にした」と目標を掲げています。自社製品の製造を強化することで、

更なる海外での売り上げの拡大、収益性の向上を図っていききたいと考えています。

インドに新工場建設開始 ロボットベンチャーにも出資

その海外向けの戦略の一つとして、今や世界1位の人口を誇り産業の大きな発展が見込まれるインドへの工場建設を進めています。現在もインドのムンバイには営業拠点がありますが、今回は自社製品強化のための工場となります。場所は、インド南部カルナータカ州にある日本工業団地（JIT）という、まさに日本企業のための用地です。インドは日本とは文化が異なり難しい部分もありますが、現地の日系企業はもちろん、ゆくゆくは現地企業にも、販売網を広げていきたいと思っています。

また、ロボットベンチャーへの出資と共同開発も進めています。作業効率化や人材不足解消を目的に、産業界ではロボットの需要が伸びています。ロボットを活用したサービスの開発にも成功しており、これらの分野も今後成長させていきたいと思っています。

■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 五島 久

当社の強みは、自社製品の開発・製造という“メーカー機能”と多様なメーカー製品の取り扱いという“商社機能”を融合させた「メーカー商社」というユニークなポジショニングです。明治の創業期から続く「お客さまの“困った”を解決する」という精神と長年培ってきた技術力がそれを支えています。

東証プライム市場に上場、海外にも多くの拠点を持つ当社は、これからの100年を見据えて「リックス協創センター」を設立されました。複数の力を合わせるという意味を込めた「協創」という名前の通り、多くの英知が集まり、この福岡から世界に向けたイノベーションが生まれることを期待します。





熊本銀行

創業70周年を機に

ものづくりのプロフェッショナル

企業として「安全と笑顔あふれる

熊本の未来」を創造。

株式会社 緒方建設

代表取締役
緒方公一氏

取引店／熊本銀行 菊池支店

■会社概要

設立:1954年／所在地:熊本県菊池市／資本金:
9,800万円／従業員:85名／事業内容:総合建設
業(土木一式工事、建築一式工事、とび・土工
事、石工事、鋼構造物工事、舗装工事、しゅんせつ
工事、水道施設工事、塗装工事一級建築士事務
所)、産業廃棄物収集運搬業、宅地建物取引業

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





緒方建設

本社前(左から緒方社長、坂本頭取)

創業から70年。 建設業を中心に 生コン、住宅事業も展開

創業は1954年。「けんめいさん」と愛称で呼ばれていた私の祖父・緒方憲明が、菊池郡^{とりで}砦村(現・菊池市)で「緒方建設」を立ち上げました。1966年に法人化、1972年に現在の「株式会社緒方建設」となっています。1974年には高まるニーズを受けて、レディーミクストコンクリートの製造・販売を担う「株式会社緒方生コン」を設立。翌1975年には父・緒方一明^{かずあき}が代表取締役になりました。

1977年には資材販売および土木・塗装・法面・安全施設の施工を担う「有限会社緒方建材」、1993年には菊池市七城町メロンドーム内で農産物加工・販売を行う「有限会社砦農園」を設立。2000年には、私が3代目として代表取締役に就任しました。その後、新しい事業としては熊本市に住宅事業部「OCTASSE」^{オクタス}を立ち上げています。

公共工事で高い実績 熊本地震の復旧工事も

一貫して行ってきたのはトンネル、道路、河川、橋梁、鉄道、造成工事、下水道、農業基盤整備、排水機場、法面処理などの公共工事です。代表的なものでは、表彰いただいた工事例でいくと熊本県知事優良工事表彰を受けた五家荘^{ごかのしろう}トンネル(2013年)、熊本河川国道事務所長優良施工表彰の太田川橋下部工(2014年)、そして九州地方整備局長優良施工表彰を受けた国道57号線滝室坂洞門(2014年)と繁根木川^{はねぎがわ}護岸(2015年)、九州地方整備局長ICT工事優秀施工表彰の倉道地区改良工事(2017年)などがあります。

中でも、大きかったのが2016年4月に起きた熊本地震後の復旧工事でした。私たちは発災直後から現場に赴き復旧に携わってきました。大きく崩壊した俵山トンネルルート建設をはじめ、河川の護岸工事や治水対策、山肌が大きく崩壊した阿蘇管内治山、道路改良や路面復旧などを行ってきました。

それができるのも、今まで私たちが培ってきた豊富な経験を持つ技術者がいたからこそ。復旧現場のみならず建設工事現場というのは、



3 1



5



4 2



6





緒方社長

場所によって地形や条件が異なり、一つとして同じ現場はありません。そのため、私たちは安全を第一に、しっかりとコミュニケーションを取って対応するよう、どのような現場であっても心がけてきました。

もちろん最新の機器の導入も積極的に行っています。「TEAMOGATA」を掲げ、ドローン・3Dスキャナーを使用した着工前測量から、ICT建機による施工、施工管理、検査、納品までを自社で取り組んでいます。

熊本は、地震のみならず豪雨などの災害が多い地域です。私たちも必要とされる現場があるのであれば、いつでもすぐに対応できるように日々知識・技術の向上に努めています。また、最近は菊陽町に進出した台湾の大手半導体メーカーTSMCの子会社であるJASMC熊本工場に関連した事業も増えてきています。これらの

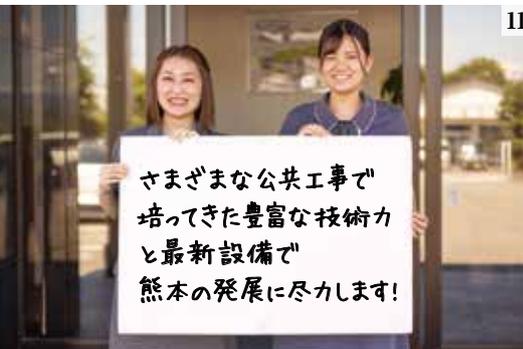
需要にも対応できるように、設備などもさらに充実させているところです。

民間・公共施設から戸建住宅まで幅広いニーズに応える

建築一式を手がける民間・公共施設工事、住宅事業も私たちが得意とするところです。熊本県知事優良工事表彰の**おおつ** 大津高校体育館（2016年）、熊本県土木部建築住宅局長優良工事表彰の総合射撃場（2017年）と表彰を受けてきた実績もあります。他にも精密部品製造工場、菊池市ふるさと創生市民広場、小学校なども手がけています。

住宅事業部「OCTASE」は、注文住宅を手がける部門です。「お客様の想いをカタチにする家づくり」をモットーに、無理のない予算でお客様の夢を可能な限り実現する圧倒的な提案力、そして緒方建設が培ってきた確かな施工力と充実したアフターメンテナンスを大切にしています。

また、ZEHビルダーとして住まいの断熱性・省エネ性を上げる「省エネ」、太陽光発電などでエネルギーを創る「創エネ」を実現。夏は涼しく冬は暖かい、高気密高断熱の家づくりを行っています。



11 9



10



8



1.対談風景／2.緒方企業グループビジョン2033のポスター／3.4.作業現場を見学／5.株式会社緒方生コンの作業現場を見学／6.プラント前で記念撮影／7.道の駅 七城メロンドーム内に店舗を構える「とりで農園」／8.とりで農園名物のメロンソフトクリームを美食／9.緒方グループ創立記念式典での記念撮影／10.住宅事業部OCTASEのオフィス／11.法人メッセージ



左2人目から都地部長、緒方憲臣専務、緒方奨副会長、緒方公一社長、坂本頭取、冨永支店長(熊本銀行)、嶋尾部長

10年後の未来に向けて 「緒方企業グループビジョン2033」 を策定

おかげさまで今年2024年5月に創業70周年を迎えました。これを一つの節目と捉え、私たちは緒方企業グループの10年後の目指すべき姿を「ビジョン」と「SDGs宣言」として、明文化・アイコン化するためのプロジェクトを立ち上げました。

集まったメンバーは年齢も部署も様々な15名です。このプロジェクトの進行「ビジョン・SDGs宣言」の策定にあたっては熊本銀行に全面的にサポートしていただき、メンバーがチームごとに分かかれワークショップなどを行いました。

その結果、策定したのが10年後に向けた「緒方企業グループビジョン2033」です。「安全と笑顔あふれる熊本の未来」をスローガンに、創業以来大切にしてきた熊本の地への愛情と、共に歩み続けてきた「ひと」への感謝を持って、安全と笑顔あふれる熊本の未来を創造していきたいという思いを込めました。

ミッションに掲げたのは「『ものづくりのプロフェッショナル』として、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進める」です。そのための

バリューとして「高い技術力を持った人材の育成」「安心安全な地域の創造」「笑顔あふれる社会の実現」を定めました。

この中で重視しているのが「高い技術力を持った人材の育成」です。高い技術力がなければ、現場で適切な判断ができません。安全を確保するには現場でのコミュニケーションが重要です。一人では、ものを作ることはできないのです。技術力の底上げができるよう、まずはコミュニケーションを取りやすい環境づくり、社内の連携ができる環境づくりが必要です。これらを達成してこそ、他の2つのバリューも達成できるのではないかと感じています。

『OGATA COMPANY GROUP FUTURE VISION 2024→2033』と題し、これらの思いを一冊にまとめたブランドブックを、2024年5月29日に開催した70周年記念式典で配布しました。社員が考えた未来を実現できるよう、私たち経営陣もしっかりとサポートしてまいります。

「熊本ブライイト企業」として 若い人が働きやすい環境を

人材育成を実現するためには、若い人材の

獲得が重要です。私たちは働く環境が厳しい建設業界の中にあつて、いち早く働き方改革に着手しました。

そこで熊本県が推進している「熊本ブライイト企業」事業に賛同し、2016年に登録しました。この事業は、働く人がいきいきと輝き、安心して働き続けられる企業を「ブライイト企業」として認定し、労働環境や処遇の向上や若者の県内就職を促進するものです。

2018年には「建設業 i-Construction」による生産性の向上と働き方改革」の取り組みについて「働き方改革の推進部門賞」を獲得しました。これは建設業における先端技術を取り入れ、生産性の向上により4週8休制の実現に向けての取り組みを評価いただいたものです。これらの取り組みをアピールして、若い人材の獲得につなげたいと思っています。

この夏、老朽化に伴い進めていた新しいプラントが完成しました。TSMCの進出によって熊本の公共工事もますます活発になっていきます。これらの事業に貢献できるよう、高い技術力と社員の団結力をもって、熊本の発展に尽力してまいります。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 坂本 俊宏



創業70周年を機に、グループのこれからのビジョンとSDGs宣言に向けて選抜された社員の皆さまがワークショップを重ねられ、「緒方企業グループビジョン2033」として、「安全と笑顔あふれる熊本の未来」という素晴らしいスローガンを掲げて熊本の明るい未来を創造されています。

熊本の公共インフラに関わり、特に熊本地震からの復旧においてはその技術や経験を大いに発揮されました。今後も、公共工事ももちろん公共・民間施設、住宅、そしてTSMC進出に伴う事業において、その高い技術力を持って、大きく貢献されることを期待しております。



十八親和銀行

高機能プラスチック加工技術で 多岐にわたる分野の課題を解決。

中興化成工業株式会社 庄野直之氏

代表取締役会長
兼社長執行役員

取引店 / 十八親和銀行 福岡営業部
福岡銀行 本店営業部

■会社概要

設立:1963年 / 所在地:東京都港区 / 資本金:3億円 / 従業員:459名(2024年4月現在) / 事業内容:ふっ素樹脂・シリコン樹脂の加工製造(粘着テープ、ベルト、プリント基板、建築用屋根膜材、各種成形品、加工用素材など) / 事業所:[営業拠点] 東京(本社および支店)、名古屋(支店)、大阪(支店)、福岡(本部および支店) [生産拠点] 長崎県松浦市・栃木県鹿沼市 / グループ会社:中興ベルト株式会社、中興化成貿易(上海)有限公司、中興化成氟製品(常熟)有限公司、Chukoh Chemical(Thailand) Co.,Ltd.、株式会社協立工業

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





当社F1松浦工場前(左から庄野社長、山川頭取)

隆盛を誇った石炭産業から アメリカ力発の新事業へと転換

ふつ素樹脂加工を中心とする加工製品の製造を手がける当社ですが、その原点は石炭の採掘会社で、石炭産業全盛期当時は中堅規模の炭鉱としては全国屈指の設備と生産量を誇って「西の中興か、北の羽幌か」とも言われたそうです。

1950年代に入って石炭に替わるエネルギーとして石油が注目され始めると、炭鉱の閉山が相次ぎ、当社の前身である中興鉱業株式会社も、新たな事業の柱を模索せざるを得ない状態となりました。

現業を続けつつも、さまざまな試みに挑戦するなかで新事業の種のひとつとして取り上げたのが「ふつ素樹脂」でした。当時のアメリカでは、水道管のシールやパッキン、電線の被覆材料として広く使われていたものの、加工が難しいとされるふつ素樹脂の市場は日本にはない状況でした。国内で数社が、アメリカからの技術導入に乗り出した結果、当社も国内における草分けの一社となったのです。

新しいプラスチックであるふつ素樹脂の加工を行う別会社を設立したのが1963年。翌年には長崎県松浦市に工場が完成し、ふつ素樹脂製品の本格生産がスタートしました。衰退する

石炭産業からふつ素樹脂加工を手がける化学工業へと事業の軸足が次第に移っていき、1977年に現在の「中興化成工業株式会社」へ社名を変更しました。

現在では、松浦市のほかに栃木県鹿沼市にも工場を構え、国内主要4都市に支店を置き、中国やタイにも海外拠点を設けて、市場ニーズに応えながら製品開発や新たな用途の開拓に力を注いでいます。

高機能のふつ素樹脂には あらゆる用途がある

ふつ素樹脂は、高機能プラスチックと称されていますが、その理由は「耐熱性」「耐寒性」「非粘性」「滑り性」「耐薬品性」「絶縁性」「耐候性」の6種の特性を同時に兼ね備えているところにあります。ひとつのプラスチック樹脂がこれほど多くの特性を有するのは珍しく、ふつ素樹脂は「最後の砦の樹脂」とさえ言われているほどです。

例えば、強酸や強アルカリに触れても不純物が溶出されない「耐薬品性」の性質は半導体製造装置分野に非常に適していて、薬液容器、配管、チューブ、ウエハーキャリアなどの半導体製造装置にはふつ素樹脂製品が不可欠となって



5



3 1



6



4 2





庄野社長

います。現在の当社において半導体分野は主力事業となっており、九州の半導体産業がますます活性化しつつある今、当社の高い加工技術は、さらに同分野で求められるものになるだろうと予想しています。

また「耐候性」は屋外での強さを意味するもので、紫外線や可視光線、湿気などの影響をほとんど受けない強みがあります。ほかのプラスチックにくらべて劣化しにくく、30年以上も強度を保ち続けます。ふっ素樹脂は撥水性も兼ね備えているため、建築分野で屋根材や壁材として採用されています。東京ドーム、北京五輪メインスタジアムとなった「鳥の巣」をはじめ、J・R博多駅や同長崎駅などにも当社が開発した屋根膜材が使われています。とりわけ、ふっ素樹脂を用いたコーティング製品の分野では、当社は世界屈指の技術を有する企業であると自負しております。

社員と地元松浦への感謝を胸に

製造業というものは、技術はもちろんですが、すばらしい社員がいなければ成り立ちません。当社の社員として働くことや日常の暮らしも含めて「当社の社員で良かった」と感じてもらえることができるよう常に努めています。例えば、近年では女性の活躍促進というフレーズはすでに社会に浸透していますが、ある会合の折に知人の女医から「あなたの会社は女性活躍推進という言葉に見合った女性目線の環境を準備できていますか？」という問いかけをいただきました。なるほど、当社も十分足りていたとは言えないと思います、まずは女性社員がいつでも気軽に利用できる相談窓口として、婦人科専門の女医による健康相談窓口の運用を開始しました。

すばらしい社員とともに、地元松浦への感謝も忘れてはいけません。広大な工場用地がなければ工場が建設できないことは言わずもがなのことですが、社員の衣食住を支える地元社会との共存こそ、欠かすことが出来ないエッセンスであると考えています。コロナ禍においては、全国各地と同様にこれまで当たり前であった松浦の飲食店も存続の危機に晒されました。もしも地元の飲食店が潰れてしまうことがあれば、



1.対談風景／2.工場眼下に広がる自然豊かな眺望(松浦市今福港)／3.社長こだわりの立派なヤシの木(工場玄関前。モチーフはサンダーバード基地とのこと)／4.工場玄関口には当社製品屋根膜材が張られている／5.6.ふっ素樹脂加工現場を見学／7.製品「チューコーフローTM粘着テープ」／8.当社の屋根膜材が採用されたJR長崎駅(提供:JRTT鉄道・運輸機構)／9.製品展示前にて記念撮影／10.「海ごみゼロウィーク2024」に参加した松浦工場社員有志／11.企業メッセージ





最前列左から上演執行役員、庄野社長、山川頭取、森田部長(十八親和銀行)

当社社員の、食の危機にも直結することになります。私は微力ながら、社員の昼食を地元飲食店へ一括注文する等の支援策を続けました。地元の方と共存共栄で何とかコロナ禍の危機を乗り越えることができたことは、今でも記憶に新しく残っています。

多くのソリューションを提供する 課題解決型企業として発展

当社が手掛けるふっ素樹脂製品の市場は半導体、通信、自動車、食品、化学、建設等々幅広い産業に広がっているとともに、その実用はチューブ、シートなどの素材から粘着テープ、ベルト、衛星放送アンテナなど実に多岐にわたります。

現在、当社にはさまざまな業界のお客さまから「自社の製品に○○という機能を持たせたい」「既存製品を改良して新たな製品を生み出したい」といった多種多様なご要望が寄せられます。私たちはこれまで培ってきたふっ素樹脂加工の高度な独自技術と経験を駆使して、お客さまの課題を解決すべく全力を傾けてきました。その結果、厚い信頼を得て、当社をさらに高みへと押し上げるご依頼が舞い込むという好循環が生まれています。

例えば、当社のシリコーンコーティング技術を施した自動車用サイドカーテンエアバックは製品の強度と薄さを兼ね備えています。もともとはお客さまより「自動車搭載の収納性を高めるため、従来の強度はそのままナイロンの薄さを追求してほしい」という難解な要望を受けたことが始まりでした。当時、試行錯誤しつつも積み重ねたノウハウを駆使して極限の薄さを実現し、求められた軽量化と省スペース化を可能にする成果を挙げました。難題に 대응するという経営姿勢とその努力がその後の事業発展につながっていったことを懐かしく思い出します。ちなみに、このエアバッグ製造に関わるコーティング装置と技術は成熟期を迎えたことから、おかげさまで2019年に有償譲渡するに至りました。

記憶に新しいところでは、当社の評判を聞きつけたJAXA（宇宙航空研究開発機構）からの指名で小型月着陸実証機「SLIM」の開発に携わるようになったことです。こちらも要求水準が非常に高い仕事でしたが、10年がかりで成功に至った開発の経験は当社にとって貴重な財産となりました。日本の新しい基幹ロケットとなるH3ロケットにも当社の技術が使われており、宇宙機に採用されているという事実は、確かな自信と感慨をもたらしてくれます。

また、SDGsにも陰ながら貢献しています。

振り返ってみると、私が前職の商社から転身して当社に入社したのは1999年で、その前年に栃木の鹿沼市に生産拠点の工場が完成した時期でした。2000年代に入ると自然環境のなかで微生物の働きによって水と炭酸ガスに分解され、焼却した際でも有毒ガスが発生しない「生分解性プラスチック」の商品開発がスタートしました。現在では、当社が得意とするフィルム加工の技術を応用した「環境配慮型ゴミ袋」の実用化に成功し、数多くの全国の自治体で採用されています。

2030年を目標に ステップアップを目指す

当社は樹脂加工という強みをもとに多くの産業・分野を支える経営を展開してきました。これから先、社会にさらに必要とされる企業として飛躍するために2030年をひとつの目標とする成長戦略を策定しているところです。これまでと変わらず、あらゆる産業界の多様なニーズに真摯に向き合っていくつもりです。高機能プラスチックの秘めた可能性は、この先も豊かな実を結んでいくに違いありません。多拠点展開のメリットを最大限に活かしながら、先進的な製品開発や需要開拓に取り組んでまいります。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 山川 信彦



日本におけるふっ素樹脂加工のパイオニアとして独自技術に磨きをかけ続け、近年では「ものづくり日本大賞 九州経済産業局長賞」を始めとする多くの賞を受賞するなど、各界から高い評価を獲得しておられます。また、高い技術力だけでなく社員と地元松浦への感謝の意を忘れない庄野社長の経営姿勢は、企業経営を志す誰しもが深く共感できるものといえるでしょう。

これまで培った一流の技術と信頼をもとに、あらゆる産業における“なくてはならない企業”として今後益々ご発展されますことを期待しております。



福岡中央銀行

強みは「鉄骨×物流」。

地元で信頼される

物流施設建設のプロフェッショナル集団。

大高建設株式会社

代表取締役社長

大木孝一郎氏

取引店／福岡中央銀行本店営業部

■会社概要

創業・設立:1975年／所在地:福岡市博多区／
資本金:9,500万円／従業員:47名／事業内容:
建築および土木の設計並びに施工、土地および
建物の開発に関する企画およびコンサルタント
業務／関連会社:株式会社大高工務店、有限
会社大高不動産

会社ホームページは
こちらからどうぞ！





大高建設

本社前(左から大木社長、荒木頭取)

地権者からの熱い要望で 会社を設立 福岡の物流拠点開発を継ぐ

創業は1975年、会社設立には一風変わった経緯があります。創業者は高崎彰一と、私の父で現在会長を務める大木孝朋。この2人はもともと、北九州に本社があった岡崎工業株式会社（1990年に山九株式会社と合併）福岡支店に勤務していました。父は建築部長、高崎氏は営業部長として、福岡市東区多の津の約20万㎡の農地を開発する大規模流通施設「福岡流通センター」の開発にあたっており、農地を有する地権者の方との調整など全てを任されていました。

ところが昭和40年代後半から起きたオイルショックにより、建設業自体が立ち行かなくなりました。岡崎工業の業績が急激に悪化し、福岡支店も閉鎖。父たちも今というリストラとなり、「福岡流通センター」の開発も頓挫する形になったのです。父たちを労い、地権者の方たちが送別会を開いてくださった時のこと、「建物だけはできているけど、この先どうなるのか。全面的に協力するから自分たちで会社を

つくってほしい」と、強く後押しされたのです。父たちは転職先が決まっていたのですが、お酒の勢いもあつたのかその言葉聞いて「それなら、やってみよう」と決意。父の

名前の大木の「大」と、高崎の「高」を組み合わせて、「大高建設」を立ち上げたのです。

このような経緯のため、現場もそのまま引き継ぎ、創業直後から順調にスタートしました。ただ、新しい会社であるため取引先となる銀行が見つからず悩んでいたところ、福岡中央銀行（当時は正金相互銀行）からご協力をいただき今に至っています。

リーマン・ショックで苦境に 物流以外の建設にも着手

私たちは一貫して、鉄骨造の物流施設や工場など「鉄骨×物流」に強く、地元・福岡に



会社の歴史に残るビッグプロジェクト「福岡流通センター」全景



5



3



1



6



4



2



大木社長

貢献する企業としての姿勢を貫いてきました。私が入社したのが1995年、大学は法学部で、その当時は特に会社を継ごうという思いはありませんでした。

ただ就職活動をしていく中で、「どこかの会社に入って働くのであれば、私を育ててくれたこの会社で頑張りたい」と思うようになり、入社を決意。当時は業界も勢いがあつた頃でしたが、その後2008年ごろに起きたリーマン・ショック以降は、厳しい状況が続きました。建築関係全体の受注が厳しくなったことから、マンション、店舗、事務所、医療・福祉施設なども手掛けるようになりました。これらの物件は物流施設とは異なる部分も多く、特に

分譲マンションは条件がいろいろと厳しく、慣れない業界だけに戸惑うことも少なくありませんでした。

現在もご縁がある案件については受注しております。鉄骨ばかりではない、いつもとは違う店舗や施設などの施工は、社員たちにとって新鮮であり、良い刺激を受けているようです。当社が施工した中で福岡市東区の児童養護施設「和白青松園^{わくしやうせいしょうえん}」は2012年度「第25回福岡市都市景観賞大賞」ならびに「福岡県美しいまちづくり建築賞奨励賞」を受賞しています。こちらの児童養護施設は、私が所属していた社会奉仕団体を通してボランティアなどの交流があり、そのご縁で担当させていただきました。また、ご縁が深い福岡中央銀行の店舗も小倉支店や久留米支店、最近では行橋支店なども手掛けています。

好調の波に乗る九州の物流 大型案件の受注が続々

私の社長就任は2012年でした。それまでは大手企業が九州に進出し価格競争が厳しかったのですが、ちょうど地元志向が高まり、



11 9



10



8

1.対談風景／2.本社設計室を見学／3.昔使われていた建築図面を描く道具を手にする様子／4.5.6.今年の夏に竣工した株式会社ワキタハイテクさま（福岡県筑紫野市）の事務所棟を見学。集合写真の前列左端が脇田社長／7.施行実績：株式会社ジェネック 香椎浜倉庫／8.施行実績：日野出株式会社 新筑紫野センター／9.施行実績：和白青松園／10.施行実績：久留米スポーツセンター／11.企業メッセージ





前列左から徳永副社長、大木社長、荒木頭取、伊藤本店営業部長(福岡中央銀行)、後列左から西建築部長、小野寺専務、濱田常務、宮崎常務

地元の案件は地元の業者が担う形になりました。その結果、無理な受注が減り何とか赤字にはならず黒字からのスタートとなりました。

その後は九州の物流が非常に好調で、特にここ5年ほどは大型の物流施設が続々と誕生しています。私たちの受注するものも、一つ一つの案件が数十億単位と規模が大きくなっており、年々最高売上げを更新しています。

現在手掛けている案件では、首都圏や中部圏を中心に物流施設開発を行っている株式会社アスコットの「アスコット・プライム・ロジスティクス小郡新築工事」(2025年夏に竣工予定)があります。本来は全国規模の建設会社に依頼されるような大規模な案件なのですが、私たちの強みを理解いただき、「福岡なら大高だ」と声をかけていただきました。

「鉄骨×物流」にこだわり 突き抜けた強みを持つ会社に

このようなご依頼をいただくのも、私たちが愚直に「鉄骨×物流」にこだわってきた結果ではないかと思っています。私たちは常々、

「福岡県で鉄骨造の物流案件を任せるなら大高、と指名を受ける存在になりたい」と思い続けてきました。鉄骨の技術に関しては、技術提携先の日鉄エンジニアリング株式会社が独自開発したシステム建築「スタンパッケージ」を数多く採用しています。日鉄エンジニアリング経由でのご紹介も多くいただいております。

おかげさまで現在は受注が途切れることなく、今はご依頼を受けることが難しい状況にあるほどです。時には「ホームページを見た」と、飛び込みでお電話をいただきます。

九州は、熊本のTSMC進出もあり、シリコンアイランド、カーアイランドとして、しばらくは物流関連については好調が続くと思います。私たちが目指すのは、大きな会社ではなく、「突き抜けた強みを持つ会社」です。自分たちの強みをさらに特化して、「福岡なら大高だ」と言っていただけのように、さらに努めてまいります。

現場の頑張りに応える賞与人材定着への方策も

社員の頑張りに応えようと、決算時の年度

末賞与を創業以来続けています。昨年度は業績が良く、かなりの金額を分配することができました。現場の頑張りというのは売上げに直結するので、やりがいにつながってくれたらと思っています。

また、いわゆる「2024年問題」によって、残業時間上限が規制されました。そのため本社の「工務部」を拡充し、現場の業務の一部を本社で担う取り組みを始めています。こちらには女性社員を多く配置していますが、今後は女性の技術者の雇用も増やしていけたらと思っています。

現場は、経験豊富な50代の社員がいるので安心していきます。彼らが現役のうちに、下の世代を育成できたらと思っています。どうしても20代、30代が少なく、定着しないことが課題です。一級建築士や一級建築施工管理技士などの資格を取得すると定着率が良いことから、現在の資格取得の費用のサポートに加えて、資格取得のための学校の授業料の費用なども会社が負担できればと考えているところです。今後も技術力の向上と人材育成に力を注いでまいります。

■ インタビューを終えて

福岡中央銀行 取締役頭取 荒木 英二

福岡中央銀行がまだ「正金相互銀行」だった頃からのお付き合いになります。「福岡流通センター」の開発を手始めに、最近では物流関連の進出が著しい福岡県小郡市に開発中の「アスコット・プライム・ロジスティクス小郡新築工事」を手掛けられるなど、鉄骨造の物流関連施設の建設においては絶大な信頼を得ておられます。

九州全体の物流がさらに活発になる中、当社がこれまで培ってこられた確かな技術力により、その需要はますます高まるものと思われまます。当社のさらなる活躍に期待をいたしております。

